

厚生労働行政推進調査事業費補助金（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業））
「レセプト情報・特定健診等情報を用いた医療保健事業・施策等のエビデンス構築等に資する研究」

分担研究報告書（令和6年度）

医療資源の投入量に地域差がある医療に関する研究

研究分担者 明神 大也（浜松医科大学 健康社会医学講座）

研究分担者 牧戸 香詠子（東京大学大学院 医学系研究科生物統計情報学）

研究分担者 西岡 祐一（奈良県立医科大学 公衆衛生学講座）

研究分担者 野田 龍也（奈良県立医科大学 公衆衛生学講座）

研究分担者 今村 知明（奈良県立医科大学 公衆衛生学講座）

研究要旨

【目的】本研究は、医療資源の投入量に地域差がみられる医療について、匿名医療保険等関連情報データベース（NDB）を用いて実態分析を行い、今後の医療資源の効率的活用に資するエビデンスを構築することを目的とした。

【方法】本研究の分析対象は、リフィル処方、病理診断、重症喘息・間質性肺炎に対する薬剤投与、糖尿病薬の処方実態の4領域である。

【結果と考察】リフィル処方については、調剤レセプトの構造上の制限がありつつも、全体の9割以上を網羅するデータで都道府県別集計が可能であった。複数回リフィルされた処方薬のうち、初回1回目が目立ったのは抗血小板薬や降圧薬、初回3回目まで含めるとアレルギー薬等も上位に現れた。病理診断では、胃がんおよび乳がん手術時の迅速病理診断や病理検査の実施状況を分析した。迅速病理診断の実施割合には都道府県間で大きな差があり、病態や手術件数の影響に加え、病理診断体制や医療機関の特性など、制度外の要因が影響していると考えられた。特に乳がんでは、病理診断ではなく病理検査に留まる例も見られた。重症喘息では、生物学的製剤の投与患者数に地域差があり、制度的支援の有無や疾患の合併状況が影響している可能性が考えられた。間質性肺炎については、抗線維化薬の使用に大きな傾向はみられなかったものの、特化した医療機関の所在や医師の判断が地域差に影響していることが示唆された。糖尿病薬では、GLP1受容体作動薬（GLP1RA）処方の動向を中心に分析を行った。GLP1RAを処方されたのは約107万人で、GLP1RA初回処方後には、半数近くの患者で糖尿病薬の処方数が減少し、インスリン使用者の一部はGLP1RAによりインスリンを中止するに至った一方、非使用者の一部は新たに使用を開始していた。薬剤の処方変化から、治療方針の多様性や変遷が読み取れる。

研究協力者

安井秀樹（浜松医科大学医学部附属病院 臨床研究センター）

坂本享史（京都大学医学部附属病院 消化管外科）

吉村季恵（奈良県立医科大学 公衆衛生学講座）

A. 研究目的

高齢者の医療の確保に関する法律において、医療保険制度の持続可能な運営を確保するため、都道府県が保険者・医療関係者等の協力を得ながら、住民の健康保持や医療の効率的な提供の推進に向けた取組を進めるため、医療費適

正化計画の作成が定められている。6年ごとに計画期間を定められており2024年度より開始される第4期の医療費適正化計画に向けた議論が社会保障審議会医療保険部会において議論され、2022年12月にとりまとめられた。

第3期までの医療費適正化計画においては、後発医薬品の利用促進や重複投薬・多剤投与の取組、特定健診・特定保健指導（以下「特定健診等」）等の施策が行われてきたが、第4期の計画に向けては、これまでの取組の推進に加えて、新たな目標として医療資源の効果的・効率的な活用に関する取組の推進や、「経済財政運営と改革の基本方針2021」（令和3年6月18日閣議決定）を踏まえ、計画の実効性を高めるため関係者の取組への参加促進等を行うこととされている。

こうした中、医療資源の効果的・効率的な活用については、①効果が乏しいというエビデンスがあることが指摘されている医療、②医療資源の投入量に地域差がある医療についての取組が位置づけられている。本邦においては匿名医療保険等関連情報データベース（NDB）が、ほぼ全ての医療サービスを網羅するデータベースとして構築されているが、上記についての実態の分析については、十分なエビデンスが集積されていない。また、③特定健診等については、2024年から特定保健指導について、成果が出たこと（減量の達成等）を評価する体系に制度が変更される。この制度の見直しを踏まえて、特定健診等についてのエビデンスの集積が今後とも必要となる。

そこで本研究では、②医療資源の投入量に地域差がある医療に関して前年度報告した迅速病理診断や比較的診断が難しいとされる間質性肺疾患を正しく診断できているかの指標として抗線維化薬の投与状況、喘息の増悪率を低下させるための重症喘息に対する抗体製剤の投与状況に加え、糖尿病薬処方の実態や病理診断/病理検査の実施比、2022年度より開始した

リフィル処方の状況の地域差を、NDBを用いて分析することを目的とする。

B. 研究方法

第9回NDBオープンデータ（2022年度診療分）及びNDB特別抽出データのうち2022年4月から2023年3月までの診療分データを用いた。4. 糖尿病薬のみ2016年4月から2023年3月までの診療分データを用いた。

1. リフィル処方

リフィル処方の場合、医科レセプトにはSIレコードに表1に示す処方箋料（以下「リフィル関連処方コード」という。）が記録される。

NDBオープンデータより都道府県別のリフィル関連処方コードを集計した。またNDB特別抽出データとNDBオープンデータの結果を比較した。

一方、調剤レセプトにはKIレコードの表2のレコード（以下「リフィル処方関連調剤コード」という。）のいずれかが記録される。

レセプト作成の手引きには、リフィル処方関連調剤コードは「調剤基本料加算の先頭に記録することが望ましい」と記載されているが、NDB上では先頭以外に記録されているケースや、同一KIレコード内に複数のリフィル処方関連調剤コードが記録されているケースも見られた。本分析では、先頭以外に記録されているリフィル処方関連調剤コードも集計対象とした。

さらにKIレコードの調剤日に一致するCZレコードの調剤日から、CZレコードの調剤順序を拾い、当該CZレコードに合致するIYレコードの医薬品コードをまとめた。

2. 病理診断

胃がんと乳がんの手術実施時の迅速病理組織診断の実施割合及び、乳がんの手術実施時の病理診断・病理検査の割合を都道府県別に示し

た。

胃がんの迅速病理組織診断については、表3に示す胃悪性腫瘍切除術を算定した患者のうち、同日にN003術中迅速病理組織標本作製(診療行為コード160059810/160171470)を算定した割合を都道府県別に集計した。乳がんの迅速病理組織診断については、表4に示す乳腺悪性腫瘍切除術を算定した患者のうち、同日にN003術中迅速病理組織標本作製(診療行為コード160059810/160171470)を算定した割合を都道府県別に集計した。乳がんの手術実施時の病理診断・病理検査の割合は、表4に示す乳腺悪性腫瘍切除術とN006病理診断料のうち組織診断料(診療行為コード160155110)を同日に算定した患者と、表4に示す乳腺悪性腫瘍切除術とN007病理判断料(診療行為コード160062310)を同日に算定した患者の比を示した。

3. 重症喘息・間質性肺炎に対する薬剤投与

重症喘息については、医科外来レセプトで喘息の確定病名(表5)がついて、かつ医科外来or調剤レセプトで生物学的製剤(表6)が処方/調剤されている患者(以下「重症喘息患者」という。)の数を男女別・都道府県別に集計した。そのうえで、2022年10月の都道府県別人口から、人口10万人当たりの重症喘息患者を算出した。

間質性肺炎については、医科外来or調剤レセプトで抗線維化薬(表7)が処方/調剤されている患者(以下「間質性肺炎患者」という。)の数を男女別・都道府県別に集計した。そのうえで、2022年10月の都道府県別人口から、人口10万人当たりの間質性肺炎患者を算出した。

4. 糖尿病薬

本研究は下記に示す3つのプロセスに分けて集計した。また、対象患者の抽出は図1の通りとした。

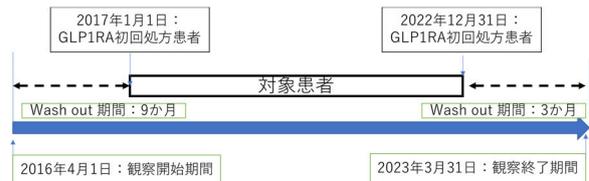


図1 対象患者抽出の期間

- ①対象期間のグルカゴン様ペプチド受容体作動薬(GLP1RA)の初回処方患者の数を集計した。
- ②GLP1RAの初回処方患者の初回処方日と同日に処方された糖尿病薬をクラスごとに集計した。
- ③GLP1RAの初回処方の直前に処方された糖尿病薬と直後に処方された糖尿病薬をクラスごとに集計した。直前と直後はそれぞれ3か月以内とした。直前であっても3か月より以前のもの、また直後であっても3か月より以降のものは除外した。

糖尿病処方薬は α グルコース阻害薬、ビッグアナイド、DPP4阻害薬、GLP1RA、インスリン、イメグリミン、メグリチニド、チアゾリジン、SGLT2阻害薬、スルホニルウレアの10種類のクラスに分類した。

さらにGLP1RAをデュラグルチド、エキセナチド、インスリンとリラグルチドの合剤、インスリンとリキセナチドの合剤、リラグルチド、リキセナチド、セマグルチドの7種類に分類した。尚、GLP1RAは日本で保険収載されている薬剤に限定した。

C. 研究結果

それぞれの集計結果を下記に示す。可読性の観点から、一部に考察も含めた。

1. リフィル処方

NDBオープンデータからリフィル関連処方コードの合計を都道府県別に表1に示し、NDB特別抽出データの医科レセプトの情報と比較した。

NDB特別抽出データの調剤レセプトに含まれる、調剤基本料加算に何らかのリフィル処方コ

ードが入っていたレコード数は 558,601 件であった。これはほぼ調剤件数と一致すると考えられる。また、レセプト数としては 514,012 件であった。

患者数としては ID1n で 134,024 人、ID2 で 131,308 人であった。

その後、リフィル処方関連調剤コード別に集計し、結果を表 2 に示した。その際、同一 KI レコード内に複数のリフィル処方関連調剤コードが記録されているレコードは集計対象外とした。

さらにリフィル処方 1 回目（最大 2 回）とリフィル処方 1 回目（最大 3 回）で調剤された医薬品上位 50 品目を表 8 と表 9 に示した。

前者では抗血小板薬、胃薬、甲状腺ホルモン剤、降圧薬などが目立った。後者では前者に加え、去痰薬・鎮咳薬・抗アレルギー薬も上位に見られた。

今後都道府県別の集計を進めていく。

2. 病理診断

胃がんと乳がんの手術実施時の迅速病理組織診断の実施割合及び、乳がんの手術実施時の病理診断・病理検査の比を都道府県別に、表 10 及び図 2・図 3 に示した。胃がんでは徳島県と香川県において 50%以上迅速病理組織診断を実施していたのに対し、富山県・鳥取県・大分県は 10%未満であり、都道府県間で 7 倍以上の差があった。乳がんでは胃がんより迅速病理組織診断実施率が高く、最高で宮城県の 84%だった。一方最低は熊本県の 34%で、最高と最低で 50%以上の差が見られた。

乳がんの手術実施時の病理診断・病理検査の比を表 10 及び図 4 に示した。大部分が病理診断を行っていることが示されたが、大分県では 60%以上の乳がんの手術時に病理検査が実施されていることも示された。

日本病理学会は全ての病理診断を医療機関で実施を目指しているが、一部の県では乳がん手術の半数以上で病理検査が実施されていることが判明した。乳がんの手術は他のがんに比べて、病

院ではなくクリニックで実施されるケースが多いとともに医療資源投入量の観点では病理検査のほうが低く抑えることができるが、医療レベルの担保のために病理診断が望ましいとされている。

今後、病理学会へのヒアリング等により、実態把握を目指す。

3. 重症喘息・間質性肺炎に対する薬剤投与

人口 10 万人あたりの重症喘息と間質性肺炎に対する薬剤投与患者数を男女別・都道府県別に表 11 及び図 5～8 に示した。

重症喘息に対する薬剤は男性より女性に処方されており、東京都・京都府・福井県が上位に挙げられた。

間質性肺炎のうち特発性肺線維症 (IPF) はもともと高齢男性に多い疾患で、全体として抗線維化薬の処方状況に傾向はみられず、都道府県ごとで違う結果であった。抗線維化薬は女性より男性に処方されており、福井県と宮崎県、東京都と京都府に処方患者数が多かったのに対し、佐賀県や高知県や埼玉県は処方患者数が少なかった。分担・協力研究者が所属する静岡県では必要な患者に絞っていると思われ、本研究成果でも結果は中等度であった。

4. 糖尿病薬

2016 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日までに糖尿病薬を処方された患者は 12,028,370 人で、このうち GLP1RA を処方された患者は 1,071,470 であった。

GLP1RA を初回処方された患者数を表 12-14 と図 9 に示した。GLP1RA のクラスごとに集計した。2020 年以降はセマグルチドを処方された患者数が増加している。

GLP1RA が初回処方された時に、同日に処方された糖尿病薬の分布を表 15 と図 10 に示した。ビッグアナイド、SGLT2、インスリン、スルホニルウレアの処方数が多かった。

GLP1RA の処方前と後の 90 日以内に処方された糖尿病薬の分布を表 16,17 に示した。GLP1RA 初回処方の前と後で処方されている糖尿病薬処方数が同数なら 0、クラスが 1 つ増えていけば +1、減っていれば -1 とし、表 18 に示した。+5 以上は少数のためすべて +5 に分類した。同様に -5 以下はすべて -5 に分類した。-5 から +5 までの患者の人数を集計し、円グラフとして図 11 に示した。クラスの数を集計したため同じクラスの薬剤が増量、または追加投与されたものは含まれない。また 1 剤の追加投与であっても 2 クラスの合剤であれば 2 と集計している。1 剤以上減った患者はほぼ半数であった。なお、インスリン使用患者が GLP1RA 処方によって、インスリンの使用を止めた患者数は 62,684 人、インスリン使用していなかった患者が GLP1RA 処方によってインスリン使用開始した患者数は 104,465 人であった。また、インスリンをもともと使っておらず、GLP1RA 処方後もインスリン使用していない患者数は 740,448 人、インスリンをもともと使っており、GLP1RA 処方後もインスリン使用継続した患者数は 163,873 人であった。

GLP1RA 処方開始した患者の人数を都道府県別に示すと表 19 のようになった。

D. 考察

今年度は、昨年度の研究報告書に示した病理診断のうち迅速病理組織診断の割合、重症喘息・間質性肺炎に対する薬剤投与に加えて、リフィル処方や病理診断/検査、糖尿病薬処方の都道府県差等を分析した。

リフィルでは調剤レセプトの構造の複雑さや NDB では摘要欄が格納時に削除されている等の理由で、自由記載欄が提供されておらず、限定された情報による分析となった。しかしながら全体の 9 割以上を分析できたとみられる。

胃がんの迅速病理組織診断の検体は、切除断端かリンパ節が大部分と考えられる。迅速病理診断実施率には、腫瘍学的因子と施設因子が関

与しているとみられる。腫瘍学的因子の観点からは、腫瘍の進行度と術式選択の関連が考えられ、腹部食道や十二指腸への浸潤が疑われる症例の割合が影響した可能性がある。施設因子の観点からは、切除標本の迅速病理診断提出の閾値や、傍大動脈リンパ節サンプリングなど特定の技術を要する手技への閾値が低い施設の割合が、一部の県で観測された実施割合の高さに貢献した可能性が考えられる。一方、実施率が低い地域では、迅速病理組織診断の体制が整っておらず、病態的に必要であっても実施できない可能性が考えられる。また、母数が少ないことで提出率が上振れまたは下振れしている可能性もありうる。そのため本研究結果から結論を導くことは困難であるが、今後、①医療機関ボリューム別、②術式別、③アプローチ別に解析することが考えられる。①では年間の胃がん切除件数を施設別に算出し、四分位範囲または絶対数で 3-4 群に分類して提出率を算出することである。②では胃局所切除・全摘・噴門側切除・幽門側切除別に分析することである。NDB オープンデータで確認すると、年々全摘の割合は減少、噴門部胃切除の割合は増加の傾向があり、胃を温存する方向になっている。③では開腹/腹腔鏡下/ロボット支援下での層別することである。腹腔鏡は広く全国で実施され、ロボット支援下も 2018 年に保険収載され、NDB により層別分析が可能である。ロボット支援下は保険収載後、急速に割合増加しているが、依然として進行癌は開腹で行われることが多く、アプローチ法の選択と悪性腫瘍の進行度との関連は依然として深いと考えられる。

重症喘息に対する薬剤については、処方患者数の多い東京都では気管支喘息医療費助成制度があり、生物学的製剤の使用が多い原因の可能性が考えられた。Yokoyama ら¹⁾の調査では四国や九州は喘息発作が多い一方で、生物学的製剤の利用が低いことも示されており、本研究結果を支持する内容であった。これらの地方では、重

症喘息に対する生物学的製剤の使用が不十分な可能性があることも示唆された。また、喘息は好酸球性副鼻腔炎と合併することも多いため、生物学的製剤を好酸球性副鼻腔炎に対して使用されているものを重複集計している可能性もある。好酸球性副鼻腔炎に対して使用するデュピクセントを除いて集計したら結果が変わる可能性がある。また、抗線維化薬については対象疾患が指定難病になっている。抗線維化薬は基本的には基幹病院の呼吸器内科医が処方するとされる。都道府県をまたいで間質性肺炎に特化した医療機関に受診する可能性も検討したが、抗線維化薬を使うほどの病態では在宅酸素を使用するなど呼吸困難感が強い患者が多く、都道府県を跨いだ受診は低いと考えられた。全体として都道府県差の理由は判然としなかったが、抗線維化薬の投与基準は明確なものはなく、主治医間での投与基準は異なることも一因と考えられた。

糖尿病については主に GLP1RA の処方数に焦点を当てて分析を行った。GLP1RA は 2020 年以降すべての都道府県において処方数が増加していた。GLP1RA は 2014 年度から 2017 年度の NDB 分析による結果²⁾では糖尿病薬の初回処方薬の中で GLP1RA は最も少なく、処方全体の 0.1-0.2% に限られていた。その一方、2012 年から 2020 年 3 月までの研究³⁾では GLP1RA は糖尿病薬処方全体でみれば最も少ないが、処方数は徐々に増加傾向にあることが示されている。そして 2020 年に新しく発売された GLP1RA であるセマグルチドは血糖コントロール以外の効果についても注目されており、体重減少効果や、2 型糖尿病患者に対する心虚血疾患発症遅延や腎不全進行遅延⁵⁾が示されたことが、処方対象患者の拡大につながったことが推測された。しかしながら本分析では 1 型糖尿病患者は除外しておらず、特に小児や若年者では一定数含まれている可能性がある。また、本分析は処方患者数に限定しており、全糖尿病患者数における割

合を地域別・性年齢階級別に示すことでより詳細な傾向がつかめる可能性がある。

今後、いずれについても分析を深掘していくとともに、必要に応じて専門家ヒアリングを行う。

E. 結論

本研究では、複数の疾患・診療行為・医薬品に対して、医療資源投入量の地域差分析を試みた。今後、分析を深掘していくとともに、必要に応じて専門家ヒアリングを行う。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

- 1) 吉村季恵、明神大也、西岡祐一、野田龍也、今村知明 奈良県 KDB データを使用したセマグルチドの処方状況について 第 83 回日本公衆衛生学会総会 2024 年 10 月 31 日
- 2) 明神大也、佐々木毅、吉澤明彦、西岡祐一、野田龍也、今村知明 NDB を用いた病理診断に係る診療行為の地域差に関する分析 第 114 回日本病理学会総会 2025 年 4 月 19 日

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし

3. その他 なし

参考：

- 1) Yokoyama A, et al. Regional differences in the incidence of asthma exacerbations in Japan: A heat map analysis of healthcare insurance claims data *Allergol Int.* 2022 Jan;71(1):47-54. doi: 10.1016/j.alit.2021.08.010. Epub 2021 Sep 4.
- 2) Bouchi R, Sugiyama T, Goto A, et al. Retrospective nationwide study on the trends in first-line antidiabetic medication for patients with type 2 diabetes in Japan. *J Diabetes Investig.* 2022;13(2):280-291. doi:10.1111/jdi.13636
- 3) Iketani R, Imai S. Prescription trends for the antidiabetic agents used to treat type 2 diabetes mellitus in Japan from 2012-2020: a time-series analysis. *Biol Pharm Bull.* 2023;46(4):592-598. doi:10.1248/bpb.b22-00710
- 4) Niman S, Hardy J, Goldfaden RF, et al. A review on the efficacy and safety of oral semaglutide. *Drugs R D.* 2021;21(2):133-148. doi:10.1007/s40268-021-00341-8
- 5) Marso SP, Bain SC, Consoli A, et al; SUSTAIN-6 Investigators. Semaglutide and cardiovascular outcomes in patients with type 2 diabetes. *N Engl J Med.* 2016;375(19):1834-1844. doi:10.1056/NEJMoa1607141

表1 都道府県別リフィル関連処方コード一覧とその算定件数

	処方箋料 (リフィル処方箋) (3種類以上の抗不安薬等・4 種類以上の抗不安薬及び睡眠薬 の投薬) (臨時投薬等を除く)	処方箋料 (リフィル処方箋) (7種類以上の内服薬の投薬 を行った場合) (臨時投薬2週間以内・地域 包括診療加算を除く)	処方箋料 (リフィル処方箋) (不安、不眠の症状を 有する患者に対して1 年以上継続して別に厚 生労働大臣が定める薬 剤の投薬を行った場 合)	処方箋料 (リフィル処方箋) (その他)
診療行為 コード	120004710	120004810	120004910	120005010
北海道	82	304	213	5,469
青森県	-	217	91	8,594
岩手県	12	92	144	1,551
宮城県	21	75	45	3,622
秋田県	25	86	20	2,345
山形県	14	147	27	2,061
福島県	50	90	143	2,266
茨城県	95	127	202	5,279
栃木県	0	62	39	2,337
群馬県	10	24	-	1,632
埼玉県	75	543	734	16,491
千葉県	54	1,210	209	70,350
東京都	182	2,712	537	63,209
神奈川県	48	254	167	17,303
新潟県	11	284	224	3,492
富山県	-	64	88	482
石川県	11	41	23	1,043
福井県	19	31	55	508
山梨県	-	29	21	2,050
長野県	24	142	63	2,896
岐阜県	22	82	35	2,776
静岡県	44	238	54	8,441
愛知県	44	110	324	8,219
三重県	-	183	106	2,099
滋賀県	13	117	38	3,168
京都府	10	184	34	7,029
大阪府	184	260	78	17,970
兵庫県	26	193	112	7,916
奈良県	-	37	38	1,272
和歌山県	46	81	47	1,138

鳥取県	-	10	38	103
島根県	-	37	0	687
岡山県	-	94	18	2,717
広島県	29	115	144	9,080
山口県	0	104	55	3,315
徳島県	-	32	-	2,061
香川県	0	89	-	1,993
愛媛県	16	32	12	1,523
高知県	11	46	44	3,412
福岡県	28	280	298	14,295
佐賀県	-	69	-	1,314
長崎県	16	117	74	939
熊本県	37	33	31	3,049
大分県	-	63	21	1,785
宮崎県	-	79	27	3,888
鹿児島県	-	126	129	2,748
沖縄県	-	56	43	2,445
合計	1,315	9,401	4,865	328,362

表2 リフィル処方関連調剤コードの一覧と記録レコード数

調剤行為名称	調剤行為コード	件数
リフィル処方1回目(最大2回)	450001670	165,921
リフィル処方2回目(最大2回)	450001770	130,576
リフィル処方1回目(最大3回)	450001870	106,045
リフィル処方2回目(最大3回)	450001970	84,834
リフィル処方3回目(最大3回)	450002070	67,280

表3 胃悪性腫瘍切除術のコード一覧

K655	胃切除術	150168010	胃切除術(悪性腫瘍手術)
K655-2	腹腔鏡下胃切除術	150323510	腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術)
		150406710	腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術)(内視鏡手術用支援機器を用いて行った場合)
K655-5	腹腔鏡下噴門側胃切除術	150377910	腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍切除術)
		150406910	腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術)(内視鏡手術用支援機器を用いて行った場合)
K657	胃全摘術	150168110	胃全摘術(悪性腫瘍手術)
		150429010	胃全摘術(悪性腫瘍手術)(空腸囊作製術を伴うもの)
K657-2	腹腔鏡下胃全摘術	150323710	腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術)
		150407110	腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術)(内視鏡手術用支援機器を用いて行った場合)
		150429110	腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術)(空腸囊作製術を伴うもの)

表4 乳腺悪性腫瘍切除術のコード一覧

K476	乳腺悪性腫瘍手術	150121610	乳腺悪性腫瘍手術（単純乳房切除術（乳腺全摘術））
		150121710	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術（腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの）・胸筋切除を併施しないもの）
		150121810	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術（腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの）・胸筋切除を併施するもの）
		150121910	乳腺悪性腫瘍手術（拡大乳房切除術（胸骨旁、鎖骨上、下窩など郭清を併施するもの））
		150262710	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴うもの（内視鏡下によるものを含む。）））
		150303110	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴わないもの））
		150316510	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術（腋窩部郭清を伴わないもの））
		150386410	乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩部郭清を伴わないもの））
		150386510	乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩部郭清を伴うもの））

表5 喘息病名のコード一覧

傷病名名称	傷病名コード	ICD10 コード
咳喘息	8846176	J459
気管支喘息	4939008	J459
小児喘息	4930005	J450
心臓喘息	4281005	I501
乳児喘息	8847408	J450
アスピリン喘息	8830247	J451
難治性喘息	4939037	J459
夜間性喘息	4939038	J459
アトピー性喘息	4930001	J450
外因性喘息	4930002	J450
混合型喘息	8833884	J458
職業喘息	4930006	J450
心因性喘息	4939016	J451
気管支喘息発作	4939012	J46
非アトピー性喘息	4939039	J451
喘息性気管支炎	4939022	J459
運動誘発性喘息	8841641	J459
感染型気管支喘息	8831609	J451
ステロイド依存性喘息	8844994	J459
気管支喘息合併妊娠	8847852	O995
気管支喘息重積発作	4939010	J46
小児喘息性気管支炎	8834797	J450
喘息とCOPDのオーバーラップ	8850253	J449

表6 重症喘息の薬剤一覧

医薬品名	薬効分類	医薬品コード
ゾレア皮下注用150mg	229	621894701
ファセンラ皮下注30mgシリンジ 1mL	229	622586701
ゾレア皮下注75mgシリンジ 0.5mL	229	622680501
ゾレア皮下注150mgシリンジ 1mL	229	622680601
ヌーカラ皮下注100mgペン 1mL	229	629906501
ヌーカラ皮下注100mgシリンジ 1mL	229	629906601
小児用ヌーカラ皮下注40mgシリンジ 0.4mL	229	629916801
テゼスパイア皮下注210mgシリンジ 1.91mL	229	629919001
テゼスパイア皮下注210mgペン 1.91mL	229	629923901
ファセンラ皮下注10mgシリンジ 0.5mL	229	629925401
ゾレア皮下注75mgペン 0.5mL	229	629928801
ゾレア皮下注150mgペン 1mL	229	629928901
ゾレア皮下注300mgペン 2mL	229	629929001
ファセンラ皮下注30mgペン 1mL	229	629931701
デュピクセント皮下注300mgシリンジ 2mL	449	622608101
デュピクセント皮下注300mgペン 2mL	449	629911101
デュピクセント皮下注200mgシリンジ 1.14mL	449	629925501

表7 抗線維化薬一覧

医薬品名	薬効分類	医薬品コード
ピルフェニドン錠200mg「日医工」	399	622788201
ピレスバ錠200mg	399	620008559
ピレスバ錠200mg(選)	399	670008559
オフェブカプセル100mg	399	622439201
オフェブカプセル150mg	399	622439301

表8 リフィル処方1回目（最大2回）で調剤された医薬品上位50品目

No	医薬品コード	調剤件数	医薬品名	薬効分類4桁	薬効分類3桁
1	610443053	5324	バイアスピリン錠100mg	3399	339
2	622404401	4902	タケキャブ錠10mg	2329	232
3	622571801	4870	ロスバスタチン錠2.5mg「DSEP」	2189	218
4	620515902	3978	チラーヂンS錠50μg	2431	243
5	622834201	2834	アムロジピンOD錠5mg「ファイザー」	2171	217
6	622811601	2723	エルデカルシトールカプセル0.75μg「サワイ」	3112	311
7	622533701	2396	レバミピド錠100mg「オーツカ」	2329	232
8	612450118	2381	プレドニン錠5mg	2456	245
9	622573101	2380	パルモディア錠0.1mg	2183	218
10	622080801	2335	ネキシウムカプセル20mg	2329	232
11	612370067	2275	ミヤBM錠	2316	231
12	613130595	2186	メチコバル錠500μg 0.5mg	3136	313
13	622484401	2129	モンテルカスト錠10mg「KM」	4490	449
14	620516002	2117	チラーヂンS錠25μg	2431	243
15	610463198	2115	マグミット錠330mg	2344	234
16	622907901	2090	フェブキソスタット錠10mg「DSEP」	3949	394
17	622143501	2064	アジルバ錠20mg	2149	214
18	622571901	2062	ロスバスタチン錠5mg「DSEP」	2189	218
19	620007818	2036	アムロジピンOD錠5mg「トーワ」	2171	217
20	622627001	2031	シダキュアスギ花粉舌下錠5,000JAU	4490	449
21	622795301	2025	キャブピリン配合錠	3399	339
22	621780303	2025	ランソプラゾールOD錠15mg「武田テバ」	2329	232
23	622575601	1969	ロスバスタチンOD錠2.5mg「DSEP」	2189	218
24	620009451	1855	ランソプラゾールOD錠15mg「トーワ」	2329	232
25	610431117	1813	プレドニゾロン錠1mg（旭化成）	2456	245
26	622434601	1776	クロビドグレル錠75mg「SANIK」	3399	339
27	622571301	1750	オルメサルタンOD錠20mg「DSEP」	2149	214
28	622514901	1712	デザレックス錠5mg	4490	449
29	622093501	1700	トラゼンタ錠5mg	3969	396
30	622080701	1672	ネキシウムカプセル10mg	2329	232
31	622516602	1652	ピラノア錠20mg	4490	449
32	620477001	1629	酸化マグネシウム錠330mg「ヨシダ」	2344	234
33	622874301	1577	エルデカルシトールカプセル0.75μg「トーワ」	3112	311
34	622695901	1561	アレジオンLX点眼液0.1%	1319	131

35	622271602	1527	ヘパリン類似物質油性クリーム0.3%「日医工」	3339	333
36	622404501	1501	タケキャブ錠20mg	2329	232
37	622455301	1481	ミティキュアダニ舌下錠10,000JAU	4490	449
38	622361101	1476	酸化マグネシウム錠330mg「ケンエー」	2344	234
39	622450401	1471	エクメット配合錠HD	3969	396
40	622704001	1469	エゼチミブ錠10mg「DSEP」	2189	218
41	622225001	1461	エリキユース錠5mg	3339	333
42	621399602	1458	ビソプロロールフマル酸塩錠2.5mg「日医工」	2123	212
43	622577101	1441	ルパフィン錠10mg	4490	449
44	622834101	1417	アムロジピンOD錠2.5mg「ファイザー」	2171	217
45	620007150	1411	ロキソプロフェン錠60mg「EMEC」	1149	114
46	622908001	1406	フェブキソスタット錠20mg「DSEP」	3949	394
47	613330003	1389	ワーファリン錠1mg	3332	333
48	622829401	1362	ピラノアOD錠20mg	4490	449
49	622342001	1361	フォシーガ錠10mg	3969	396
50	622784701	1356	メトホルミン塩酸塩錠500mgMT「DSPB」	3962	396

表9 リフィル処方1回目（最大3回）で調剤された医薬品上位50品目

No	医薬品コード	調剤件数	医薬品名	薬効分類4桁	薬効分類3桁
1	621973701	5106	カルボンステインD S 5 0 % 「タカタ」	2233	223
2	620390701	4950	アンプロキソール塩酸塩D S小児用1. 5 % 「タカタ」	2239	223
3	620002503	3484	アスベリンドライシロップ2 %	2249	224
4	622627001	2899	シダキュアスギ花粉舌下錠5, 0 0 0 J A U	4490	449
5	622516602	2384	ピラノア錠2 0 m g	4490	449
6	622571801	2153	ロスバスタチン錠2. 5 m g 「D S E P」	2189	218
7	610443053	2057	バイアスピリン錠1 0 0 m g	3399	339
8	620721301	1993	シナール配合錠	3179	317
9	622455301	1757	ミティキュアダニ舌下錠1 0, 0 0 0 J A U	4490	449
10	610463198	1691	マグミット錠3 3 0 m g	2344	234
11	622484401	1634	モンテルカスト錠1 0 m g 「K M」	4490	449
12	622404401	1613	タケキャブ錠1 0 m g	2329	232
13	622695901	1563	アレジオンL X点眼液0. 1 %	1319	131
14	622271602	1450	ヘパリン類似物質油性クリーム0. 3 % 「日医工」	3339	333
15	622458301	1439	ラロキシフェン塩酸塩錠6 0 m g 「サワイ」	3999	399
16	622672501	1351	モメタゾン点鼻液5 0 μ g 「杏林」5 6噴霧用 5 m g 1 0 g	1329	132
17	620009048	1216	ヒルドイドソフト軟膏0. 3 %	3339	333
18	622080801	1175	ネキシウムカプセル2 0 m g	2329	232
19	622577101	1147	ルバフィン錠1 0 m g	4490	449
20	621911701	1130	アラミスト点鼻液2 7. 5 μ g 5 6噴霧用 3 m g 6 g	1329	132
21	620678704	1126	カルシトリオールカプセル0. 5 μ g 「サワイ」	3112	311
22	620009049	1118	ヒルドイドローション0. 3 %	3339	333
23	622795801	1117	レボセチリジン塩酸塩錠5 m g 「武田テバ」	4490	449
24	622514901	1083	デザレックス錠5 m g	4490	449
25	613130595	1079	メチコパール錠5 0 0 μ g 0. 5 m g	3136	313
26	667120036	1037	プロベト	7121	712
27	622811601	1020	エルデカルシトールカプセル0. 7 5 μ g 「サワイ」	3112	311
28	620007818	1020	アムロジピンOD錠5 m g 「トーワ」	2171	217
29	620000094	1001	ピオフェルミン錠剤	2316	231
30	612370067	976	ミヤBM錠	2316	231
31	620003890	966	L - アスバラギン酸C a錠2 0 0 m g 「サワイ」	3214	321
32	622249101	862	フェキソフェナジン塩酸塩錠6 0 m g 「S A N I K」	4490	449
33	622604901	855	ベボタスチンベシル酸塩錠1 0 m g 「タナベ」	4490	449
34	620005047	828	トラネキサム酸錠2 5 0 m g 「Y D」	3327	332

35	622533701	817	レバミピド錠100mg「オーツカ」	2329	232
36	620515902	806	チラーヂンS錠50μg	2431	243
37	622571901	804	ロスバスタチン錠5mg「DSEP」	2189	218
38	620814003	790	ヘパリン類似物質ローション0.3%「日医工」	3339	333
39	622829401	753	ピラノアOD錠20mg	4490	449
40	622143501	750	アジルバ錠20mg	2149	214
41	620675601	742	アルファカルシドール錠0.5μg「アメル」	3112	311
42	620477001	730	酸化マグネシウム錠330mg「ヨシダ」	2344	234
43	622907901	721	フェブキソスタット錠10mg「DSEP」	3949	394
44	621959501	720	アムロジピンOD錠5mg「サワイ」	2171	217
45	622571301	713	オルメサルタンOD錠20mg「DSEP」	2149	214
46	613910185	712	ハイチオール錠8080mg	3999	399
47	622057201	705	フェブリク錠10mg	3949	394
48	622834201	693	アムロジピンOD錠5mg「ファイザー」	2171	217
49	622874301	680	エルデカルシトールカプセル0.75μg「トーワ」	3112	311
50	622573101	676	パルモディア錠0.1mg	2183	218

表 10 胃がんと乳がんの手術時の迅速病理組織診断の実施率及び、乳がんの手術実施時の病理診断・病理検査の割合

都道府県	胃がん	乳がん	乳がんの病理診断／病理検査
北海道	19%	47%	2.9
青森県	26%	66%	5.1
岩手県	30%	81%	5.3
宮城県	25%	84%	23.4
秋田県	33%	73%	17.6
山形県	25%	80%	7.6
福島県	35%	39%	4.8
茨城県	10%	55%	7.8
栃木県	17%	75%	19.4
群馬県	17%	76%	12.3
埼玉県	30%	71%	7.5
千葉県	23%	68%	6.0
東京都	36%	75%	16.1
神奈川県	26%	77%	17.0
新潟県	13%	54%	10.2
富山県	8%	80%	8.5
石川県	18%	67%	40.0
福井県	33%	81%	40.0
山梨県	20%	81%	8.8
長野県	45%	65%	24.6
岐阜県	15%	58%	21.4
静岡県	33%	79%	17.5
愛知県	33%	72%	30.5
三重県	32%	80%	31.7
滋賀県	31%	66%	4.0
京都府	23%	35%	2.2
大阪府	33%	67%	17.2
兵庫県	34%	72%	16.4
奈良県	13%	66%	38.3
和歌山県	34%	54%	3.3
鳥取県	6%	72%	13.3
島根県	30%	76%	40.0
岡山県	43%	77%	10.7
広島県	28%	72%	25.2

山口県	21%	63%	7.5
徳島県	60%	71%	7.9
香川県	55%	59%	18.1
愛媛県	40%	38%	12.6
高知県	35%	72%	5.6
福岡県	19%	62%	6.0
佐賀県	22%	62%	2.0
長崎県	13%	73%	43.4
熊本県	21%	34%	3.3
大分県	8%	57%	0.6
宮崎県	25%	37%	7.6
鹿児島県	40%	39%	5.4
沖縄県	36%	53%	2.3

表 11 重症喘息及び抗線維化薬の投与患者数（人口 10 万対）

都道府県	重症喘息		抗線維化薬	
	男性	女性	男性	女性
北海道	26.3	42.3	30.6	16.0
青森県	21.8	36.3	45.8	17.0
岩手県	20.4	24.7	35.8	16.0
宮城県	19.6	30.1	33.0	12.3
秋田県	35.3	38.3	46.5	24.8
山形県	16.0	22.8	40.2	16.4
福島県	17.6	26.0	44.1	16.0
茨城県	31.2	37.1	37.5	17.1
栃木県	33.4	29.1	41.9	23.5
群馬県	19.9	26.9	31.7	16.5
埼玉県	18.5	25.2	26.2	13.3
千葉県	21.5	30.6	32.2	15.0
東京都	46.9	69.2	34.3	17.1
神奈川県	28.1	45.4	29.0	14.2
新潟県	20.7	32.4	29.4	12.4
富山県	24.0	30.7	30.1	9.8
石川県	26.7	34.3	39.8	15.0
福井県	42.9	48.3	55.2	25.7
山梨県	23.9	31.4	44.4	16.7
長野県	22.8	26.7	46.4	15.6
岐阜県	20.7	24.6	30.3	12.8
静岡県	25.1	34.6	33.5	16.2
愛知県	21.1	30.2	29.8	13.7
三重県	16.7	24.4	31.4	12.7
滋賀県	24.6	35.7	27.5	10.9
京都府	46.3	65.2	47.3	21.1
大阪府	32.4	41.0	26.4	13.6
兵庫県	32.2	39.2	34.5	16.0
奈良県	21.3	28.8	41.2	15.1
和歌山県	18.8	28.1	37.1	15.5
鳥取県	24.6	35.9	45.8	18.0
島根県	26.1	32.6	48.1	22.4
岡山県	29.8	42.1	33.0	15.9

広島県	30.9	40.2	46.9	19.1
山口県	29.6	40.9	36.1	18.6
徳島県	22.9	23.9	41.7	21.5
香川県	30.8	43.9	54.8	25.3
愛媛県	33.5	38.6	52.6	20.7
高知県	19.7	28.1	22.2	13.2
福岡県	23.9	32.3	38.4	17.5
佐賀県	19.5	20.9	18.7	12.1
長崎県	16.7	30.3	31.5	14.1
熊本県	21.3	29.6	39.9	14.7
大分県	19.6	25.1	43.5	16.5
宮崎県	21.7	36.4	48.3	29.4
鹿児島県	16.8	25.3	25.5	14.8
沖縄県	11.8	24.0	26.1	18.8

表 12 GLP1RA が初回処方された患者数

GLP1RAgeneric_name	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	計
Dulaglutide	40,995	61,429	66,069	71,524	66,946	62,674	56,777	
Exenatide	16,573	1,361	727	463	291	147	51	
Insulin degludec/liraglutide	0	0	0	2,449	13,769	25,262	17,842	
Insulin glargine /lixisenatide	0	0	0	0	4,530	6,171	4,003	
Liraglutide	74,998	19,710	16,872	19,156	19,028	12,241	6,475	
Lixisenatide	9,200	2,161	602	359	289	164	86	
Semaglutide (内服+注射製剤)	0	0	0	0	4,996	94,187	204,736	
総数	141,727	84,658	84,270	93,948	109,832	200,822	289,947	1,071,470

表 13 GLP1RA が初回処方された患者数（男女別）

GLP1RAgeneric_name	性別	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
Dulaglutide	男	22,209	34,970	38,244	41,513	39,542	37,302	34,026
Dulaglutide	女	18,786	26,459	27,825	30,011	27,404	25,372	22,751
Exenatide	男	8,660	734	395	215	149	84	25
Exenatide	女	7,913	627	332	248	142	63	26
Insulin degludec/liraglutide	男	0	0	0	1,440	8,421	15,823	11,301
Insulin degludec/liraglutide	女	0	0	0	1,009	5,348	9,439	6,541
Insulin glargine /lixisenatide	男	0	0	0	0	2,726	3,840	2,586
Insulin glargine /lixisenatide	女	0	0	0	0	1,804	2,331	1,417
Liraglutide	男	41,644	11,674	10,155	11,605	11,567	7,441	3,964
Liraglutide	女	33,354	8,036	6,717	7,551	7,461	4,800	2,511
Lixisenatide	男	5,050	1,203	338	211	165	83	45
Lixisenatide	女	4,150	958	264	148	124	81	41
Semaglutide (内服+注射製剤)	男	0	0	0	0	2,503	52,484	118,136
Semaglutide (内服+注射製剤)	女	0	0	0	0	2,493	41,703	86,600
総数	男	77,543	48,579	49,132	54,981	65,062	117,048	170,071
	女	64,184	36,079	35,138	38,967	44,770	83,774	119,876
Semaglutide (内服のみ)	男	0	0	0	0	0	35,624	113,874
	女	0	0	0	0	0	29,342	83,124
		0	0	0	0	0	64,966	196,998

表 14 GLP1RA が初回処方された患者の年齢分布

年齢	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
10歳未満	38	17	20	21	24	34	38	10
10-15	202	146	148	155	161	273	377	78
16-20	469	297	327	293	408	818	1,093	304
21-25	995	571	563	672	872	1,864	2,729	693
26-30	1,982	1,247	1,192	1,311	1,646	3,624	5,165	1,253
31-35	3,820	2,168	2,059	2,232	2,936	6,086	8,980	2,024
36-40	8,145	4,348	4,110	4,165	5,101	9,995	14,466	3,108
41-45	11,900	6,669	6,353	7,214	8,726	17,656	26,098	5,465
46-50	13,623	7,447	7,487	8,399	10,651	22,079	34,042	7,692
51-55	15,110	7,976	7,855	8,714	10,866	21,930	33,954	7,764
56-60	17,302	8,841	8,417	9,197	10,925	20,924	32,388	7,249
61-65	22,121	12,394	11,220	11,712	12,818	23,093	32,787	7,272
66-70	16,339	10,003	10,621	12,445	15,098	28,300	39,793	8,805
71-75	14,803	10,060	10,091	11,864	12,786	19,366	27,148	6,894
76-80	9,677	7,629	8,236	9,130	9,666	14,608	18,447	4,431
81-85	4,101	3,706	4,208	4,787	5,322	7,610	9,403	2,377
86-90	949	971	1,186	1,410	1,566	2,191	2,592	727
91-95	140	158	163	201	249	338	423	120*
96歳以上	11	10	14	26	11	33	24	—

* 2023年のみ91歳以上を合計

表 15 GLP1RA 初回処方と同時処方された糖尿病薬の分布

class	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
ツイミーグ	0	0	0	0	0	209	2,080	1,818
Aldose reductase inhibitor	2,577	1,236	1,057	1,106	1,187	1,802	2,020	345
Biganide	66,238	35,647	35,840	41,940	50,535	100,903	150,790	32,625
Dipeptidyl peptidase-4 inhibitor	9,482	6,345	4,757	4,962	4,847	7,243	8,168	2,070
Glucagon-like peptide-1 receptor agonist	141,727	84,658	84,270	93,948	109,832	200,822	289,947	66,266
insulin	51,774	28,753	25,308	27,787	40,605	58,274	50,487	10,628
Meglitinide	11,601	8,479	9,211	10,917	12,665	20,903	25,756	5,489
Sodium-dependent glucose transporter-2 inhibitor	22,270	18,454	24,437	33,809	44,478	97,747	155,131	35,574
Sulfonylurea	36,629	17,405	16,848	17,287	18,837	36,487	52,915	11,061
Thiazolidine	14,149	7,130	6,587	6,972	7,259	14,634	20,444	4,037
α -glucosidase inhibitor	23,081	15,177	14,379	15,098	16,173	27,518	34,966	7,318
総数	141,727	84,658	84,270	93,948	109,832	200,822	289,947	66,266

表 16 GLP1RA 初回処方の直前（90 日以内）に処方された糖尿病薬の分布

class	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
ツイミーグ	0	0	0	0	0	137	1,710	1,629
Aldose reductase inhibitor	872	1,271	1,042	1,083	1,188	1,796	1,955	350
Biganide	20,738	33,904	33,528	38,730	46,723	96,067	142,055	30,614
Dipeptidyl peptidase-4 inhibitor	29,100	53,049	52,469	58,195	67,160	124,827	177,992	39,167
insulin	20,437	29,346	25,496	26,644	32,950	44,984	38,896	7,804
Meglitinide	5,115	8,618	9,000	10,234	12,059	20,217	24,554	5,162
Sodium-dependent glucose transporter-2 inhibitor	8,632	17,660	22,471	30,902	41,354	94,764	147,450	33,734
Sulfonylurea	12,996	21,341	20,439	21,039	22,223	41,158	56,345	11,749
Thiazolidine	5,233	8,023	7,294	7,578	7,807	16,068	22,189	4,397
α -glucosidase inhibitor	10,164	16,430	15,220	15,908	16,881	28,717	35,776	7,500
処方が拾えた人の数	45,130	72,071	70,272	77,709	90,193	167,084	236,671	53,084
総数	141,727	84,658	84,270	93,948	109,832	200,822	289,947	66,266

表 17 GLP1RA 初回処方の直後（90 日以内）に処方された糖尿病薬の分布

class	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
ツイミーグ	0	0	0	0	0	237	2,518	1,073
Aldose reductase inhibitor	2,402	1,205	1,018	1,053	1,151	1,644	1,920	194
Biganide	61,913	33,688	34,032	39,788	47,366	90,578	144,121	17,740
Dipeptidyl peptidase-4 inhibitor	10,114	7,618	6,479	6,891	6,803	11,410	19,239	2,717
Glucagon-like peptide-1 receptor agonist	123,016	72,749	72,869	81,158	95,354	176,938	248,380	33,392
insulin	48,470	27,288	24,020	26,093	37,364	52,722	46,577	5,804
Meglitinide	11,050	8,352	9,004	10,652	12,147	19,191	24,908	3,155
Sodium-dependent glucose transporter-2 inhibitor	21,868	17,889	23,675	32,498	41,931	88,288	150,259	19,698
Sulfonylurea	33,730	16,122	15,608	16,183	17,494	32,048	50,597	6,130
Thiazolidine	13,108	6,729	6,317	6,560	6,719	12,883	19,490	2,206
α -glucosidase inhibitor	21,857	14,666	13,841	14,595	15,478	24,762	33,357	4,155
処方が拾えた人の数	136,413	82,084	81,521	90,667	106,082	194,179	277,010	37,527
総数	141,727	84,658	84,270	93,948	109,832	200,822	289,947	66,266

直後<+90

表 18 GLP1RA 処方前後に処方された内服糖尿病薬の種類の数

GLP1RA 処方前	GLP1 処方後	人数
0	0	147,944
0	1	72,070
0	2	54,538
0	3	21,318
0	4	5,740
0	5	993
1	0	79,428
1	1	73,989
1	2	10,188
1	3	1,878
1	4	328
1	5	45
2	0	44,020
2	1	104,500
2	2	57,947
2	3	4,028
2	4	440
2	5	60
3	0	31,363
3	1	28,131
3	2	134,519
3	3	28,643
3	4	1,522
3	5	116
4	0	15,187
4	1	5,516
4	2	18,948
4	3	73,379
4	4	10,370
4	5	360
5	0	5,127
5	1	1,041
5	2	2,279
5	3	6,156
5	4	23,095
5	5	6,264

- ・ 5 種類以上はすべて 5 に集約
- ・ インスリンと GLP1 を除く
- ・ 経口内服薬に限る

表 19 都道府県別、年別の GLP1RA 処方患者の人数 初回処方的人数

都道府県	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
北海道	6,762	4,171	3,972	4,467	5,269	8,695	12,757	2,912
青森県	2,034	977	1,058	940	1,370	2,047	2,916	605
岩手県	1,024	908	927	1,037	1,530	2,889	3,928	805
宮城県	2,261	1,235	1,496	1,810	2,080	3,692	5,471	1,287
秋田県	1,522	882	723	708	870	1,778	2,311	643
山形県	614	419	526	571	598	1,202	1,838	461
福島県	1,835	1,536	1,194	1,536	1,673	2,694	4,744	1,152
茨城県	3,205	1,903	1,904	1,964	2,111	4,035	6,873	1,504
栃木県	2,601	1,515	1,560	1,657	2,111	3,966	5,446	1,181
群馬県	2,656	1,511	1,527	1,609	1,925	3,179	4,400	1,029
埼玉県	6,418	3,861	3,906	4,580	5,378	10,196	15,330	3,433
千葉県	7,064	3,994	3,649	4,483	5,230	9,842	14,487	3,230
東京都	16,454	8,939	9,098	10,173	12,159	23,638	33,013	7,487
神奈川県	9,542	5,782	5,955	6,899	7,770	13,954	19,674	4,520
新潟県	1,612	1,055	984	1,082	1,272	2,266	3,782	835
富山県	1,045	598	609	586	778	1,757	2,729	638
石川県	1,403	772	734	717	801	1,553	2,418	555
福井県	595	525	427	454	568	1,032	1,873	410
山梨県	802	477	467	580	694	1,115	1,728	397
長野県	1,912	1,161	1,008	1,318	1,526	2,969	4,468	1,058
岐阜県	2,033	1,013	1,074	1,438	1,607	3,014	4,619	965
静岡県	3,121	1,954	1,845	2,265	2,496	5,057	8,096	1,848
愛知県	8,225	5,174	5,079	5,271	5,732	11,443	17,820	3,978
三重県	1,744	1,014	870	960	1,168	2,557	3,626	868
滋賀県	1,713	980	920	1,028	1,189	1,715	2,506	600
京都府	3,154	2,181	1,925	2,179	2,456	4,212	5,744	1,250
大阪府	12,235	6,979	7,220	8,089	8,884	14,957	19,569	4,856
兵庫県	6,051	3,351	3,920	4,274	5,108	8,828	12,139	2,855
奈良県	1,068	669	757	889	1,156	2,197	2,840	704
和歌山県	836	548	482	532	575	1,196	1,756	424
鳥取県	244	174	224	289	404	755	1,057	223
島根県	440	354	394	492	718	1,254	1,659	331
岡山県	2,602	1,612	1,343	1,402	1,616	2,821	4,263	1,040
広島県	2,863	1,876	1,941	1,996	2,271	4,069	5,993	1,304
山口県	1,299	763	694	850	1,111	2,434	3,250	670
徳島県	1,171	621	770	823	912	1,647	1,787	469

香川県	1,317	1,028	881	985	1,191	2,648	3,938	827
愛媛県	2,232	1,039	1,082	1,135	1,697	2,986	3,736	786
高知県	646	366	435	501	508	967	1,113	333
福岡県	6,651	3,838	4,156	4,346	4,789	8,666	13,022	2,934
佐賀県	1,040	669	644	681	958	1,686	2,062	419
長崎県	1,694	1,069	1,069	1,181	1,298	2,010	2,762	590
熊本県	1,933	1,158	1,188	1,233	1,580	3,033	4,522	936
大分県	1,709	969	846	897	1,077	1,778	2,770	672
宮崎県	1,200	849	745	785	914	1,664	2,571	565
鹿児島県	1,612	1,329	1,174	1,297	1,625	2,825	3,625	885
沖縄県	1,534	862	870	963	1,082	1,909	2,919	794

初回処方的人数

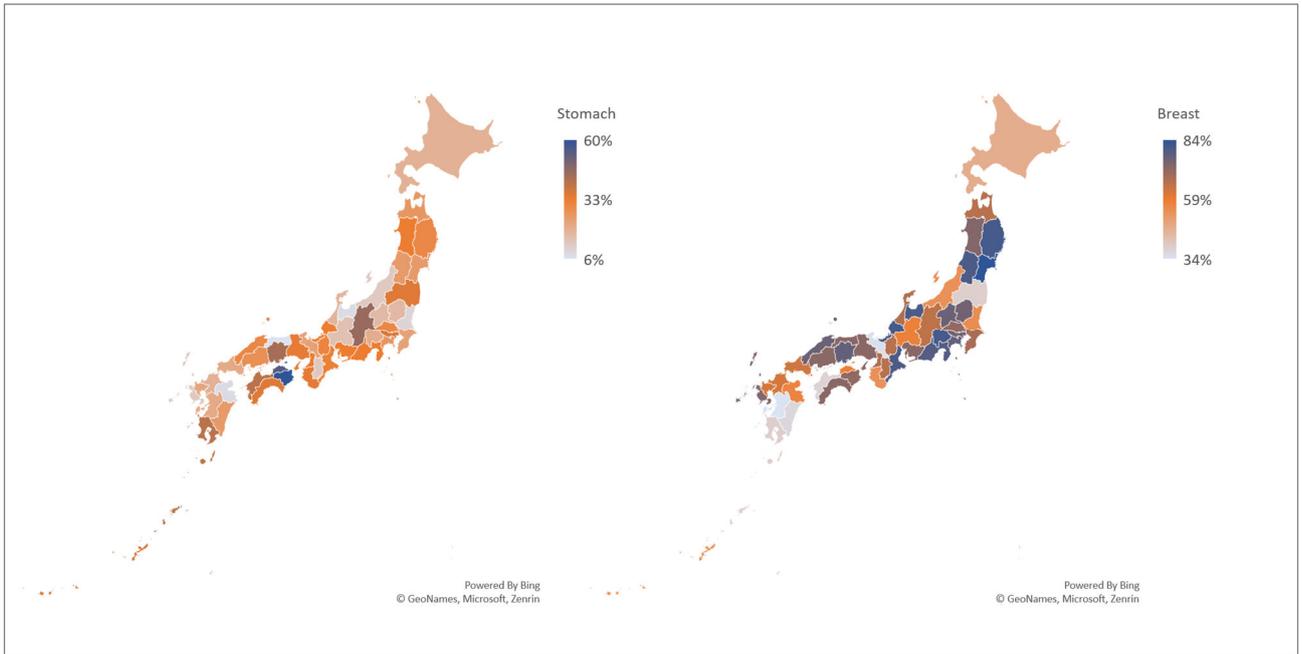


図2、図3 胃悪性腫瘍切除術/乳腺悪性腫瘍切除術時に迅速病理組織診断を行っている割合

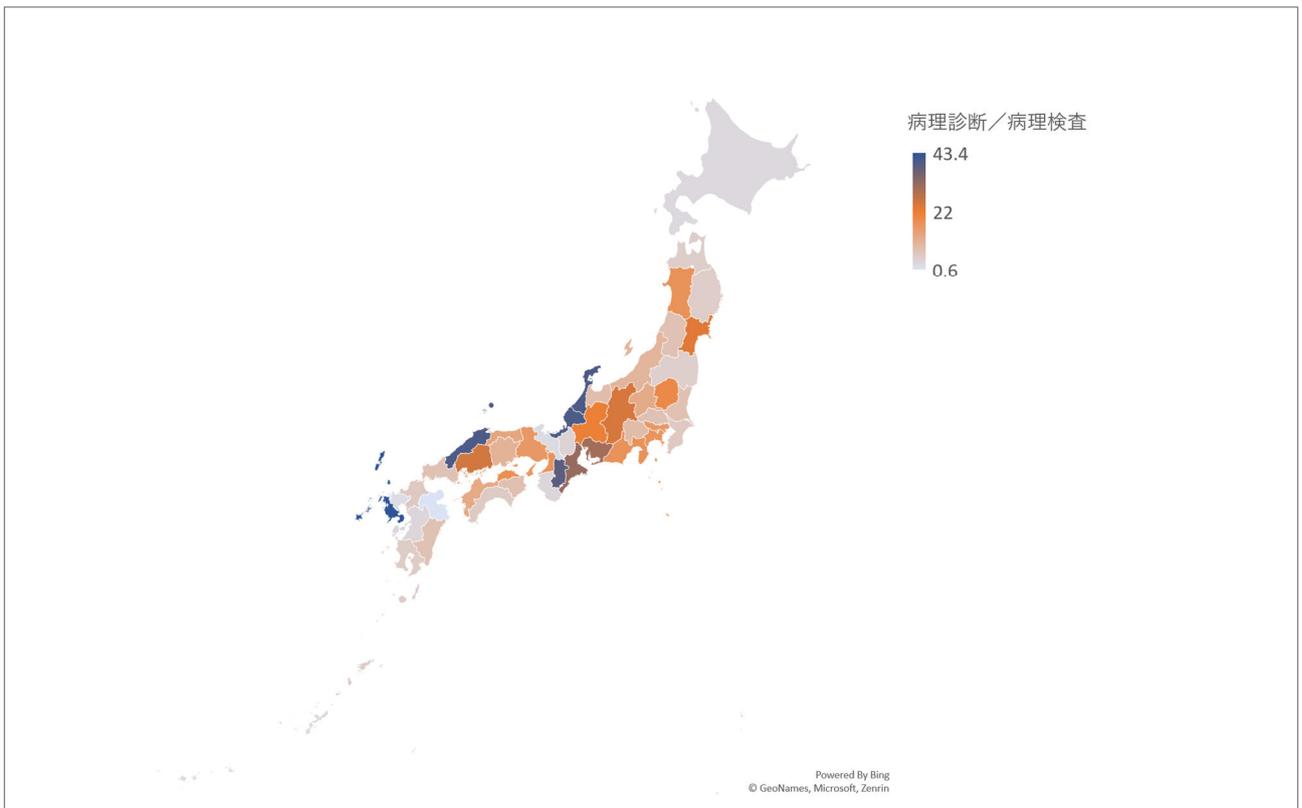


図4 悪性乳腺腫瘍切除術に伴う病理診断/病理検査の比

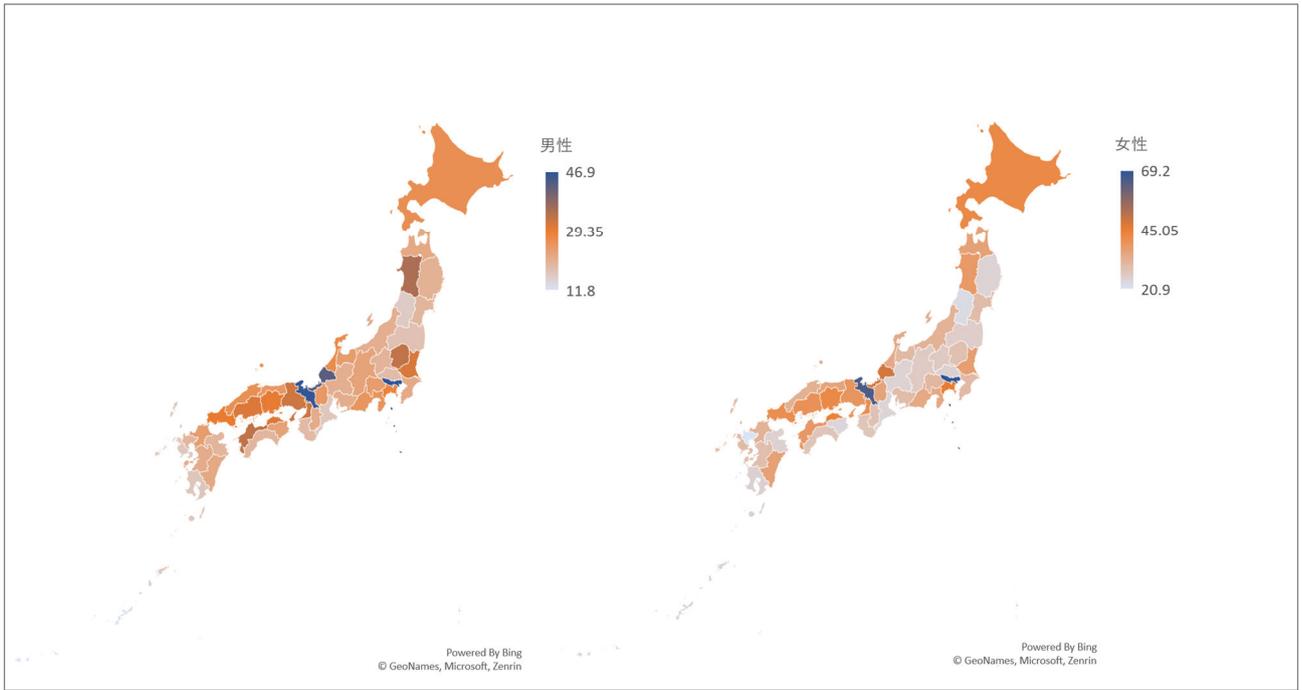


図5、図6 重症喘息に対する抗体医薬使用患者数（人口10万対）

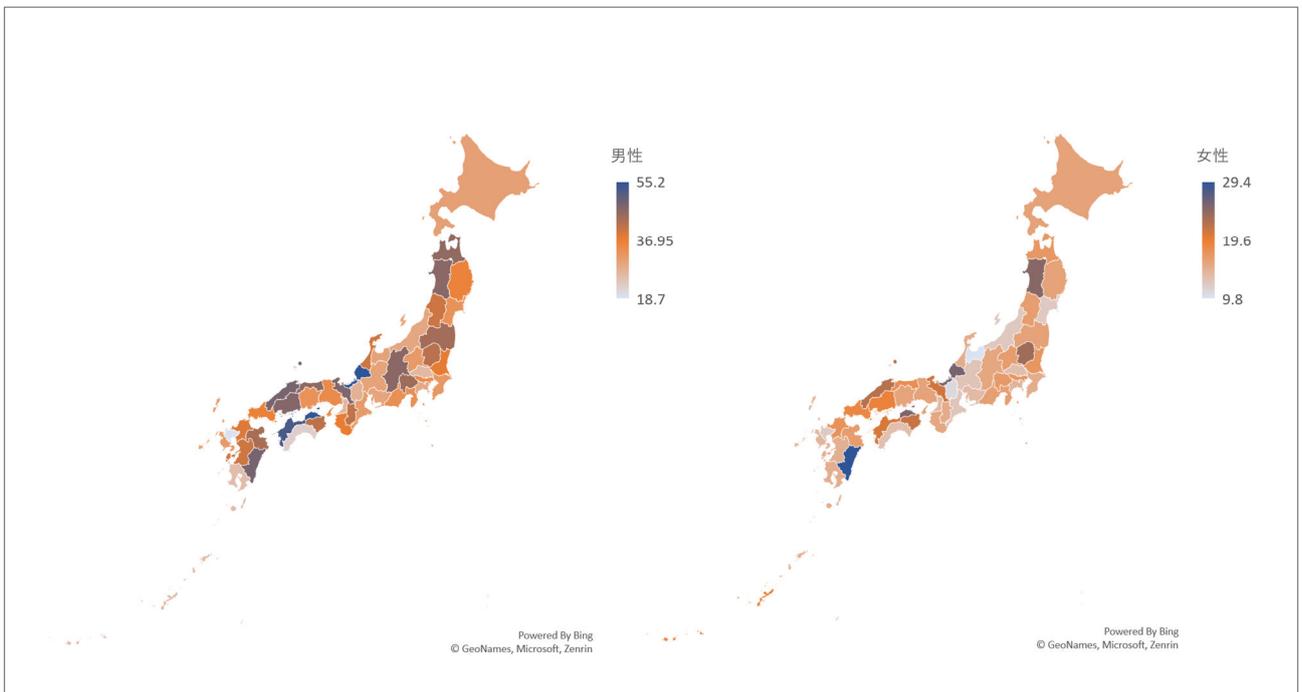


図7、図8 間質性肺炎に対する抗線維化薬使用患者数（人口10万対）

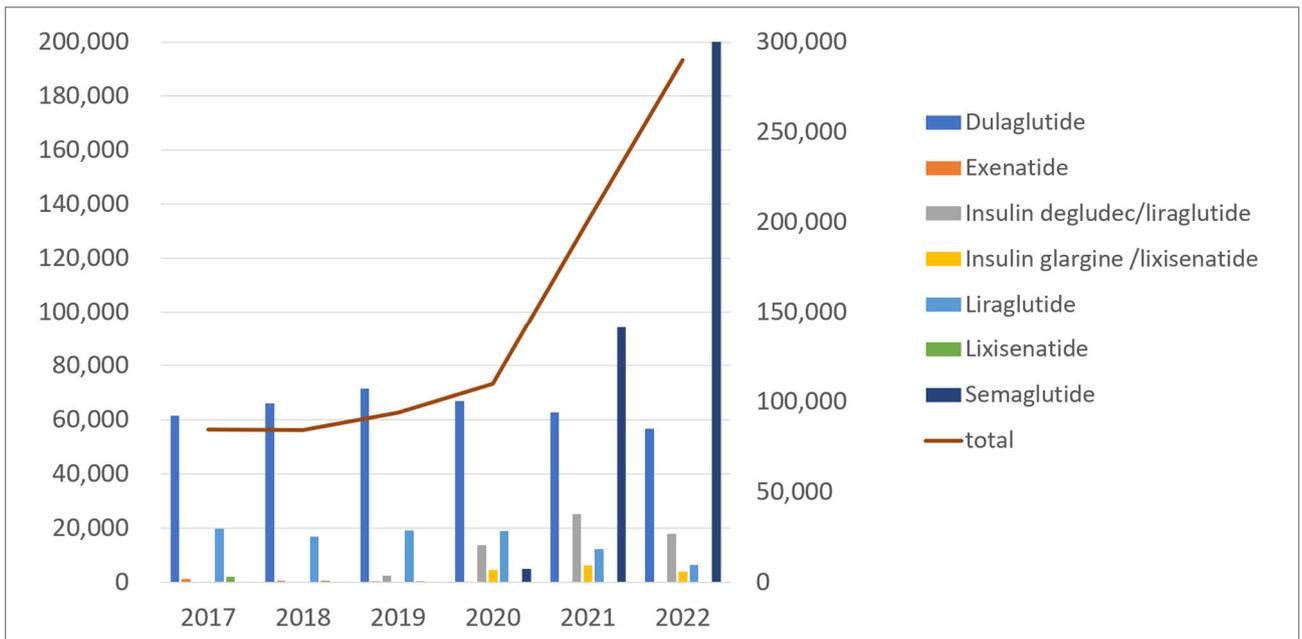


図9 GLP1RA 処方患者の人数

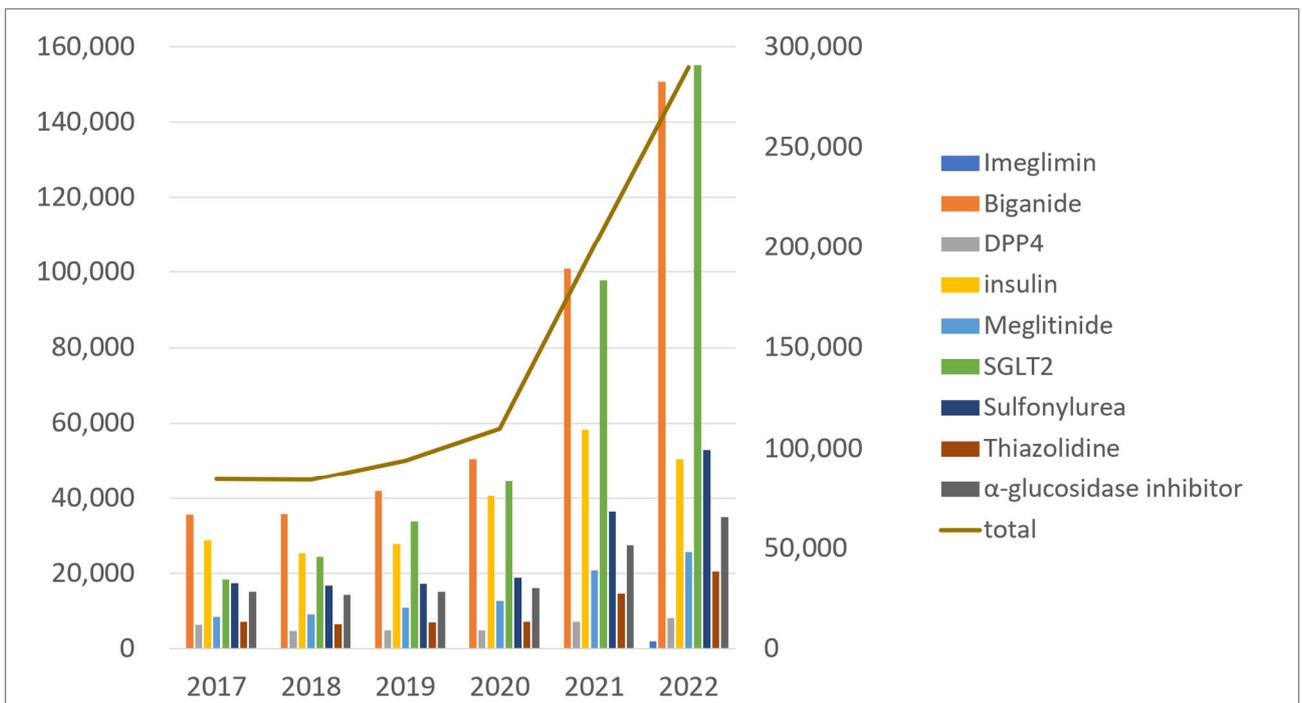


図10 GLP1RA 初回処方と同時に処方された糖尿病薬

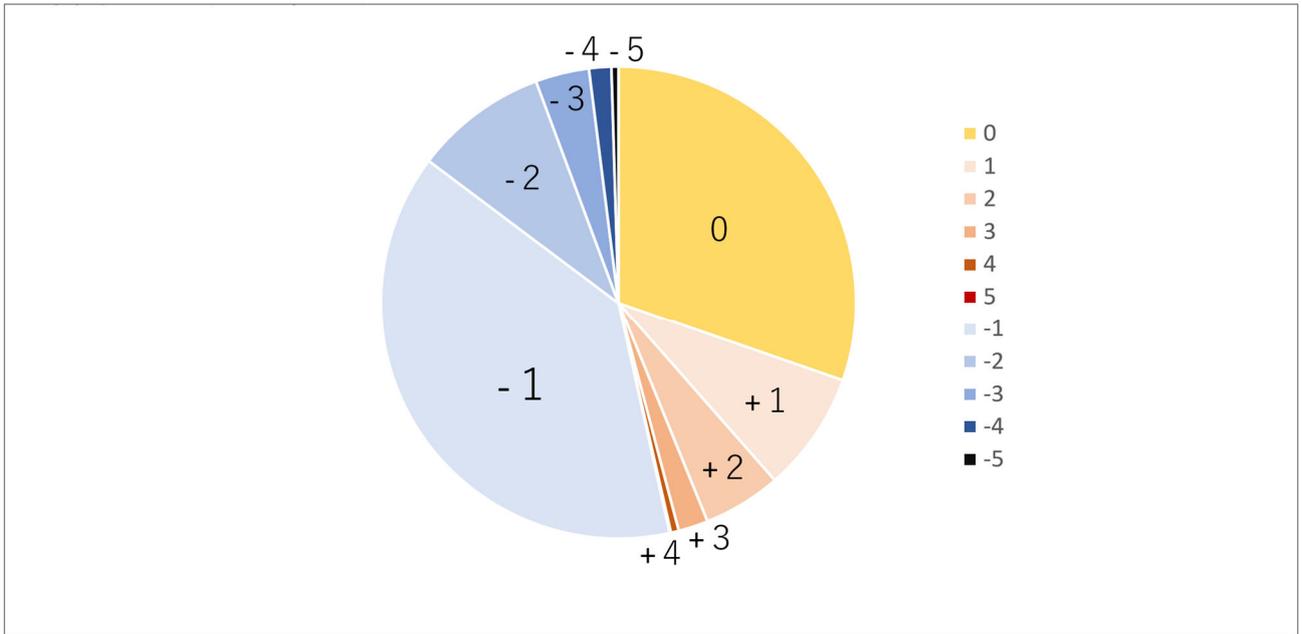


図 11 GLP1RA 処方前後の同時処方糖尿病薬数